

【様式】

平成30年度 学校マネジメントシート

学校名（ 杉の子特別支援学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす。
(2)	育みたい 児童生徒像	・ 自立と社会参加をめざし、主体的に取り組む子ども ・ 自己肯定感や他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	・ 特別支援教育に情熱をもって取り組み、子どものニーズや障がいの特性に応じた教育活動や地域支援を推進する教員 ・ 対話・会話を大切にし、同僚と協働でき、組織力の向上をめざす教員 ・ 防災対策や防災教育、人権感覚あふれる学校づくり等、子どもたちが安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教員 ・ 保護者・地域・関係機関と連携し、就学前から卒業後までの一貫した指導・支援を推進していく教員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈児童・生徒〉 ・ 自立と社会参加に向けて、様々な体験的な学習を経験して、卒業後の生活に必要な力や主体性を育んでほしい。 ・ 一人ひとりが活かされる仲間づくりを推進してほしい。 〈保護者〉 ・ 子ども一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参加に向けた教育と進路実現を推進してほしい。 ・ 安心・安全な学習環境を維持継続してほしい。 〈地域の学校・関係機関〉 ・ 地域における特別支援教育の充実・推進に向け、センター的機能を発揮してほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈保護者〉 ・ 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育 〈地域の学校〉 ・ 交流を通しての共生共学に対する理解と推進 ・ 地域の特別支援教育のセンター的機能 〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 ・ 情報提供や障がい者理解に向けた支援 〈地域社会〉 ・ 本校の教育活動の公開と情報提供	〈保護者〉 ・ 目指す学校づくりへの理解と協力 〈地域の学校〉 ・ 交流を通しての様々な活動や体験 〈地域の関係機関（企業・福祉施設等）〉 ・ 現場実習の受け入れ及び就労実現 ・ 職業授業への情報やノウハウの提供 ・ 放課後等の利用、卒業後の入所 ・ 就労や施設利用に関する情報の提供 〈地域社会〉 ・ 社会活動への参加や進路先の確保、卒業後の支援 ・ 本校の教育活動の理解と協力

(3) 前年度の学校関係者評価等		・ ゆっくり成長していく子どもたちもいるため、スモールステップで丁寧な指導を心がけ、保護者と連携して取り組んでほしい。子どもの成長に合わせて保護者も成長していけるような支援を心がけてほしい。 ・ 学校生活・家庭生活だけでなく、卒業後の進路先でも子どもが自分に合った機器が活用できるように地域への啓発も行っていきたい。 ・ 感染症対策や防災教育についても、学校として組織的な取り組みを引き続き行っていってほしい。 ・ 本校・分校間での授業見学等に引き続き取り組み、本校と分校の連携を更に推進してほしい。 ・ 勤務時間縮減は喫緊の課題だが、会議は議論になると長くなることも理解できる。効率の良い会議の運営を心掛けることで教職員の勤務時間を減してほしい。 ・ 学校評価アンケートから保護者からの良い評価を受けていることが把握される。今後とも保護者や関係機関と連携して生徒の成長に結びつけてほしい。
(4) 現状と課題	教育活動	・ 子どもの発達・特性・特徴等の実態、現場実習等で把握された課題を基に、一人ひとりに対応した課題及び手だてを設定した上での授業実践・指導・支援を推進する必要がある。また、新学習指導要領の周知と教育課程との整合性の確認・検証をする必要がある。 ・ 「学びの連続性」を念頭に一貫性のあるキャリア教育の推進を図る必要がある。 ・ 仲間づくりの推進、命を大切にする教育・人権教育の推進を図る必要がある。 ・ 自立と社会参加をめざす教育の充実に向け、多様な体験的な学習機会を設定し、一人ひとりの課題を設定した系統的・計画的な取り組みを推進する必要がある。
	学校運営等	・ 教職員の専門性向上の取り組みを継続するとともに、地域における特別支援教育の推進に向けたセンター的機能の充実を図る必要がある。 ・ より实际的で多様な場面設定がなされた防災訓練、危機管理訓練等を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。 ・ 本校・分校、関係機関（鈴鹿病院、石薬師高校等）、保護者との連携や情報共有を図る必要がある。 ・ 地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する必要がある。 ・ 業務内容・校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	・ 一人ひとりに対応した課題及び手だてを設定した上での授業実践・指導・支援を推進する。また、新学習指導要領と教育課程との整合性の確認・検証を実施する。 ・ 「学びの連続性」を念頭に一貫性のあるキャリア教育を推進する。 ・ 仲間づくりの推進、命を大切にする教育・人権教育を推進する。 ・ 自立と社会参加をめざす教育の充実に向け、多様な体験的な学習に系統的・計画的に取り組む。
学校運営等	・ 教職員の専門性の向上、地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。 ・ より实际的で多様な場面設定がなされた防災訓練、危機管理訓練等を実施し、教職員の対応力向上を図る。 ・ 本校・分校、関係機関（鈴鹿病院、石薬師高校等）、保護者との連携・信頼関係の強化を図る。 ・ 地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する。 ・ 業務内容・校内組織の見直しを推進し、総勤務時間の縮減に向けた取り組みを推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
○個の課題に応じた指	○個々の課題に応じた指導や授業の充実 【活動指標】	(年度末および適宜記載)	

導の充実・ 教育課程編 成	・児童生徒のアセスメントの実施、個別の教育支援計画・指導計画に基づいた授業実践 ・校内での授業研究（教員相互による参観）による授業力の向上 ・学部研修等による児童生徒の教育課題や指導方法等の教員間での情報共有 【成果指標】 ・校内での授業研究会の実施 5回以上		
○キャリア 教育の充実	○「杉の子キャリア教育プログラム」を活用した授業実践 【活動指標】 ・「杉の子キャリア教育プログラム」を活用した研究授業、検討会の実施 ・個別の指導計画等について「杉の子キャリア教育プログラム」に基づいた視点での保護者への説明と情報共有 ・キャリア教育の目標と関連づけたシラバスの改訂 【成果指標】 ・キャリア教育プログラムの活用についての教員アンケート 80%以上		
○仲間づく り・人権教 育の推進	○学校におけるすべての教育活動が「仲間づくりやいじめの防止」「人権教育」の場であるという意識を教職員が持ち、児童・生徒が自分の思いを伝え、他者との関わりを楽しめる関係づくりを進める取組 【活動指標】 ・日常的な取組に加え、学校全体で一斉に仲間づくりや地域との交流に取り組む「杉の子人権週間」の実施 各学期1回 ・取り組み内容について「子どもとこんなことをしました」（人権教育実践事例フォルダ）による実践記録の積み上げ・情報の共有 ・多文化共生や男女共同参画等、本校の実情に即した教職員研修会の実施 2回 【成果指標】 ・「人権教育」について、児童・生徒の変化及び教職員の意識の変化における教職員アンケートでの「効果あり」の回答 70%以上 ・交流及び共同学習終了後、相手校・保護者・担任を対象としたアンケートによる満足度 80%以上 ・教職員研修会の事後アンケートによる満足度 80%以上		
○体験的な 学習の充実	○一人ひとりの自立と社会参画に向けた教育を充実するため、多様で体験的な学習機会の設定 【活動指標】		

	・児童生徒の思考力、判断力、表現力等の育成を目指した体験型の活動を取り入れた校外学習の実施 ・関係機関と連携し、働くことの意義や意欲を体得、達成感や自己肯定感が実感できる校内実習の実施 【成果指標】 ・日常生活や職業生活で、児童生徒が主体的に選択・判断できる場面の拡大		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
○専門性向上・センター的機能の充実	○専門性向上の研修会実施、校内講座の実施・地域の学校や関係機関の方々を対象にした一日体験研修や杉の子実践夏季研修講座の開催 【活動指標】 ・学部研修、教育部門別研修等の実施 8回実施 ・子ども心身発達医療センターPT・ST・OT 招聘の研修等の実施 3回実施 ・研修部と支援部が連携した校内講座の実施 8回 ・情報研修会の実施 2回 ・参加者のニーズに合わせた一日体験講座の実施 6～11月 ・杉の子夏季研修講座の開催 5講座 【成果指標】 ・研修及び各講座の事後アンケート満足度 80%以上	(年度末および適宜記載)	
○危機管理体制の強化	○大地震を想定した防災学習、火災と地震を想定した訓練の実施、情報発信 【活動指標】 ・児童生徒の防災学習の実施 各学期1回 ・火災と地震を想定した訓練の実施 3回 ・スクールバス引き渡し訓練の実施 1回 ・学校だよりへの防災に関する取り組みの掲載 3回 ・防災訓練等をフィードバックさせた防災マニュアルの見直しについての検討 【成果指標】 ・各訓練等の実施率 100% ・保護者アンケート満足度 85%以上		
○関係機関・	○保護者が早期から進路について考える機会、障害者総合支		

保護者等との連携・信頼関係の強化	援法に定められている様々な福祉サービスについて知る機会の設定 ○進路に関する情報について石薬師分校との連携 【活動指標】 ・希望する保護者への進路懇談会の実施（福祉サービスの説明、自宅近隣の施設の確認、本校及び石薬師分校の進路指導計画等の説明） ・進路だよりによる石薬師分校との交流 3回 ・病院との連絡会、生徒指導懇談会の定期的な開催による児童生徒の支援や安全衛生に関する情報共有 【成果指標】 ・進路懇談会終了後アンケートでの満足度 80%		
○地域との連携強化	○開かれた学校づくりを進めるため、一日体験講座や学校見学会等の積極的な取組、Web ページ等を活用した情報発信の推進 【活動指標】 ・参加者のニーズに合わせた一日体験講座の実施 6～11月（再掲） ・地域の学校等の教職員を対象とした学校見学会の実施 ・Web ページへの学校行事等の計画的な掲載 35 回以上更新 ・地域への学校行事等の案内配布や地域の商業施設等への作品展示などによる理解啓発 【成果指標】 ・一日体験講座の事後アンケート満足度 80%以上（再掲） ・宿泊学習、修学旅行、運動会等、学部行事の Web 掲載率 100%		
○働きやすい職場環境づくり	○総勤務時間の縮減や業務のスリム化等を進めることによる、働きやすい職場環境に向けた取り組みの推進 【活動指標】 ・職員間の円滑なコミュニケーション促進のためのオフサイトミーティングの開催 1回 ・定時退校日の設定 毎月 1 回 ・職員会議の時間外延長 0 回 ・定例の会議を 60 分以内に終了する割合 85% ・ノー会議デーの設定（個別の指導計画等提出前、家庭訪問前、文化祭前 3～5 日間） 年間 25 日 ・時間外労働時間前年度比 10%減 ・計画的な休暇取得の促進 各自昨年度比 1 日増 【成果指標】 ・職員アンケートによる働きやすい職場率 80%以上		

改善課題

(年度末に記載)

5 学校関係者評価

明らかになった
改善課題と次へ
の取組方向

(年度末に記載)

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ
いての改善策

(年度末に記載)

学校運営につ
いての改善策

(年度末に記載)